

事業報告

令和元年度 教育事業 教員免許状更新講習

令和元年9月7日(土)～8日(日)

【対象】小・中学校教諭

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な知識や技術を身につける。また、学習指導要領における体験活動の位置付けについて理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

～主催～

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立信州高遠青少年自然の家

～活動日程～

8:30 9:00		10:30 10:45		12:45 13:30		15:30 15:40		18:40 18:50		20:50 22:00	
1 日 目	受付 開講式	講義 「教育の現状と課題」 (1.5h)	実習 学級で活かせる「体験活動を使った人間関係づくり①」(2h)	昼食	講義 学級で活かせる「体験活動を使った人間関係づくり②」(2h)		実習 学級作りに活かす体験活動「野外炊飯」(3h)		実習 体験活動「キャンプファイヤー」の指導法(2h)	入浴 自由交流	就寝
7:20 8:30		10:30 10:50		14:20 14:30		15:30 15:40		15:50 17:20			
2 日 目	朝食	講義 「体験活動の教育的意義」(2h)	実習 学級作りに活かす自然体験活動「オリエンテーリング」(昼食弁当を含む)(3.5h)		講義 「野外活動における安全管理」(1h)	閉講式	履修認定試験 (1.5h)	解散			

～参加者～

33名(男性18名 女性15名)

(小学校教諭17名 中学校教諭11名 養護学校教諭3名 その他2名)

(長野県27名 山梨県5名 大阪府1名)



～活動トピックス～

講義Ⅰ 【教育の現状と課題】

講師：長野県教育委員会学びの支援課義務教育指導係教育主幹兼係長 曾根原 好彦 氏

新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的・深い学び」について、また今の子供たちが抱えている課題や新しい学力観に立った授業の実践について理解を深めた。



講義・実習Ⅰ 【学級で活かせる「体験活動を使った人間関係づくり」】

講師：国立阿蘇青少年交流の家次長 北見 靖直 氏

まずはじめに人間関係を円滑にするためのアイスブレイクについて実習を行った。つぎにアイスブレイクの効用について具体例をもとに学んだ。

実習Ⅰ 【学級作りに活かす体験活動「野外炊飯」】

講師：国立阿蘇青少年交流の家次長 北見 靖直 氏

国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

危険予知トレーニング(KYT)をはじめに行ってから、カレーライス作りに取り掛かった。実際に作ってみることで、失敗しそうな場面を知り、危険察知能力を高めることができた。





実習Ⅱ 【体験活動「キャンプファイヤー」の指導法】

講師：国立阿蘇青少年交流の家 次長 北見 靖直 氏

国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

天候にも恵まれ、屋外でキャンプファイヤーについて学んだ。キャンプファイヤーの歴史や種類についての講義を受け、展開の仕方や効果的なスタンプについて理解することができた。

講義・実習Ⅱ 【体験活動の教育的意義】

講師：信州大学教育学部スポーツ科学教育講師 瀧 直也 氏

はじめに講義を聞き、後半に環境学習ゲームを体験した。講義で学んだことを実習で体験することができ、理解が深まった。



実習Ⅲ 【学級づくりに活かす自然体験活動「オリエンテーリング」】

講師：国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

当施設プログラムの施設内オリエンテーリングと独自プログラムであるフォートオリエンテーリングをグループにわかれて行った。天候にも恵まれたため、参加者は気持ちよい汗をかいていた。オリエンテーリング実施上の留意点を身をもって知ることができた。

講義Ⅱ 【野外活動における安全管理】

講師：国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

リスクマネジメントについて実地踏査の重要性を中心に学んだ。実地踏査をしていない指導者には写真を見せるなどの具体的な方法で情報を共有することの必要性を学んだ。

また、KYT で学んだことをもとに考えられるリスクを意識することにより、いざという時の対応にも余裕ができ、冷静な判断につながることも確認できた。

～参加者の声～

- ・免許更新講習は座学が多い中で、体験しながら学べるととても良い内容であると思いました。
- ・盛りだくさんの内容でしたが、様々な方面での専門の方からの話を聞いてとても充実していました。
- ・実際の体験をしながら学べるところがこの講座の良いところだと思います。講師の先生のお話はとても印象に残り野外活動に限らず、とても参考になりました。
- ・限られた時間の中で、多くの体験や講義が受けられるように考えられていてよかったです。
- ・行事運営することはたくさんあっても、改めて学べる場というのはあまりなかったので「こんな風にやろう。やってみたい。」という考えが広がる貴重な体験でした。
- ・様々な演習があり、また講義とつなげて、あるいは学校現場の諸活動とつなげて考えられる充実したものであった。

～成果と課題～

○講師の先生方の講義内容がよかったことと、講義と実習をバランスよく配置したことにより、2日間で18時間の受講というハードな日程であっても、参加者の方々から非常に高い満足度を得た。来年度も同じ講師と同じ日程で開講するとよい。

○履修認定試験は参加者全員が基準を満たした。試験方法や内容は的確であったといえる。

○夜の情報交換会には、多くの参加者が出席した。「違う県や校種など、普段ふれあう機会のない先生方と交流する場があってよかった」という声が多かった。来年度以降も続けたい。

●参加者からは、三連休の初めの二日間に実施するとか、2日目の開始時刻を早め、終了時刻を早めて欲しいという意見もあった。